



東京大学横断型教育プログラム

海洋学際教育プログラム

2025
University-wide Education Program
Interdisciplinary Education Program on
Ocean Science and Policy

プログラムガイダンス

2025年4月7日(月)18:00~
ガイダンス会場(工学部2号館213講義室)

ガイダンスの詳細はこちらにアクセスしてご確認ください。



2025年度「海洋学際教育プログラム」ガイダンスのお知らせ
<https://www.oa.u-tokyo.ac.jp/news/0074/index.html>



Message

世界の海に 視野を広げようとする諸君に

海洋はいま、世界の国々が共存する場であるとともに、解決すべき多くの課題を抱えています。漁業資源や海底鉱物資源の利用、海ごみ・マイクロプラスチックの削減、そして地球温暖化に伴う環境変化への対応などが問題として顕在化してきており、国連のSDGsに基づく問題解決を図るためには、それらの利害を調整し多面的な知の力と世界をつなぐ人材のネットワークが必要です。

海洋学は、もともと、物理学、化学、生物学、地学などの自然科学に、水産学や海洋技術工学などの応用分野が融合した学際的な研究分野といえます。しかし、現代社会が抱える海洋にかかわる諸問題に立ち向かうには、従前の学際的学問領域に加えて、海洋法や海洋政策といった社会科学の知も結集して対応に当たる必要があります。つまり、文理融合が海洋学に求められる時代となっているのであり、それらの学問分野に幅広いリテラシーを持った人材の必要性が高まっています。

文系理系といった枠を超えた知識と問題解決能力の涵養は容易ではありませんが、次の世代を担う諸君には、是非、チャレンジしてほしいと考え、学際的な海洋問題に即応可能とする高度海洋人材の育成を目指す「海洋学際教育プログラム」が、2009年に東京大学の正式な横断型教育プログラムとして開講されました。

本教育プログラムは、東京大学の全学的な部局横断型海洋教育研究の核として7研究科、5研究所、1研究センターが中心となって2007年に設置された「海洋アライアンス」が基盤であり、この海洋アライアンスは2020年4月に海洋アライアンス連携研究機構として組織が大きく発展し、引き続き本教育プログラムの運営に協力していきます。必修科目となっている「海洋問題演習」の2025年度の演習課題は「持続可能な海事産業の構築を目指して」「海洋再生可能エネルギー」「カーボンクレジット」「マリンバイオセキュリティ」「海洋における食糧安全保障」「世界にコミットする問題発掘とその具体的対応・国際機関との連携」「文化的側面から見た海洋の捉え方」であり、海洋アライアンスに所属する教員が、専

門分野を駆使して現代社会が抱える問題に挑戦する学生の指導を担います。

一方で、海洋学際教育プログラムでは、国際機関へ費用負担なしで行ける海外インターンシップと国内の関連省庁や組織で実施する国内インターンシップを用意しています。海の現場を知るためのフィールドワークを組み入れたカリキュラムも準備されており、この教育プログラムに参加する学生は、それぞれの研究科で専門性を深めるだけでなく、世界に広く視野を広げる機会を持つことができます。

森・川・海・空の連環が理解されるようになり、海は海だけで閉じた空間ではありません。海洋を対象に研究をする学生だけでなく、海洋に直接関わりがなくとも、陸域生態系や水・大気循環、地球環境変動、陸上の行政・政策に関連する研究分野の学生にとっても有意義な情報が得られ、必ず専門分野の研究にも役立つものと期待しています。また、単に、海洋に興味があるので全体像を把握したい、あるいは学際的な思考に興味がある、フィールドとしての海に触れてみたい、といったリベラルアーツとしての知識の涵養を求める学生も歓迎します。

社会課題の解決のためその現場を知ること何より大切にしていることは先に述べた通りです。2020～21年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、海外インターンシップを含めオンライン授業の大幅な導入を余儀なくされましたが、2022年度からは授業を原則として対面に戻し、海外インターンシップの派遣も再開しています。2025年度は、解決すべき課題をさらに実感できるプログラムを提供したいと考えています。自己研鑽を積極的に望む学生諸君を海洋学際教育プログラムはお待ちしております。

海洋学際教育プログラム主査
大気海洋研究所 教授
海洋アライアンス連携研究機構長

木村 伸吾

海洋学際教育プログラム委員



副査：
山本 光夫
農学生命科学研究科 農学国際専攻・教授



委員：
升本 順夫
理学系研究科 地球惑星科学専攻・教授



委員：
三浦 徹
理学系研究科 生物科学専攻・教授



委員：
田島 芳満
工学系研究科 社会基盤学専攻・教授



委員：
柴崎 隆一
工学系研究科 システム創成学専攻・准教授



委員：
八木 信行
農学生命科学研究科 農学国際専攻・教授



委員：
高須賀 明典
農学生命科学研究科 水圏生物科学専攻・教授



委員：
早稲田 卓爾
新領域創成科学研究科 海洋技術環境学専攻・教授



委員：
北川 貴士
新領域創成科学研究科 自然環境学専攻 / 大気海洋研究所・教授



委員：
伊藤 幸彦
新領域創成科学研究科 自然環境学専攻 / 大気海洋研究所・教授



委員：
城山 英明
公共政策学連携研究部・教授



委員：
伊藤 一頼
公共政策学連携研究部・教授



委員：
牧野 光琢
大気海洋研究所・教授



委員：
山口 飛鳥
大気海洋研究所・准教授



主査：木村 伸吾
大気海洋研究所・教授



大気海洋研究所

新領域創成科学研究科

農学生命科学研究科

工学系研究科

公共政策大学院

理学系研究科

Program

社会課題の解決に取り組む「海洋問題演習」

必修科目の「海洋問題演習」では、海洋にかかわる社会的な問題の現状を知り、グループワークによってその解決に向けた提言をまとめます。第一線で活躍する学内外の専門家がオムニバス形式で講義を行うSセメスターと、少人数のグループワークで議論を深めるAセメスターとからなる通年科目です。海洋学際教育プログラムの中核をなす科目といえます。2025年度は「持続可能な海事産業の構築を目指して」「海洋再生可能エネルギー」「カーボנקレジット」「マリンバイオセキュリティ」「海洋における食糧安全保障」「世界にコミットする問題発掘とその具体的対応・国際機関との連携」「文化的側面から

見た海洋の捉え方」の7テーマで実施する予定です。

Aセメスターのグループワークでは、現地調査を実施します。グループ分けの際には履修者の文理バランスを考慮するので、自分の専門分野とは違う知のフレームワークに触れることができます。

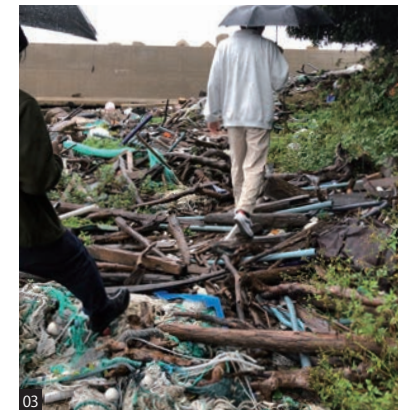
まとめた提言は授業の最終回にグループごとに発表し、優秀なグループを表彰します。成績評価は、課題レポートをもとにセメスターごとに行います。



01



02



03

01.海ゴミ問題について説明を受ける
02.離島で地域振興についてインタビュー
03.海ゴミの状況を調査

海の現場を知る国内外のインターンシップ

海に関係するプロの仕事を、その現場に入って肌で感じることができるのが、海洋学際教育プログラムのインターンシップです。国内外の機関の協力で独自のしぐみを整えており、とくに学内の選考を経て派遣する海外インターンシップは、一般公募に比べて実現のチャンスが大きくなっています。参加して報告書を提出すると、選択必修科目「海洋法・海洋政策インターンシップ実習」の単位として認定されます。

04.羽田空港で説明を受ける(国交省インターンシップ)05.海上保安庁の観測船の前で(同)06.東アジア水路委員会(14th EAHC)の様子(同) 07.アルフレッド・ウェゲナー極地海洋研究所でのインターンシップ



海洋に関する現場型の文理横断プログラム

海洋学際教育プログラムの特徴は、海洋にかかわる現代の社会問題に目を向け、その解決の力となる文理にわたる幅広い講義科目をそろえている点にあります。机上にとどまることなく社会の現場を体験するためのフィールドワークや、国連を始めとする国内外の機関に派遣するインターンシップ制度も用意しています。

このプログラムは東京大学の大学院生を対象としており、プログラム独自の必修科目「海洋問題演習」に加え、各研究科が開講している科目からプログラムが指定するものを選んで履修します。海洋物理学、海洋生物学、海洋工学、海洋政策、沿岸管理など多彩な科目を指定している点が特徴です。所属する研究科の境を越えた新

たな領域にチャレンジすることを、強くお勧めします。必修科目、選択必修科目、推奨科目から所定の単位を取得すると、東京大学教育運営委員会から正式な修了証が授与され、修了証明書が発行されます。履修生の多くは修士課程で修了しています。

修士・博士論文に向けた研究に加えてプログラム修了のための科目を履修することになりますが、履修科目が専攻と重複している場合もあり、修了生からは「負担感はさほどなかった」「他研究科の学生と知り合いになれてよかった」との声も聞かれます。専門の枠を超えて自分を磨く貴重な経験になるはずです。

これまでのプログラム参加人数

開講年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
必修科目「海洋問題演習」受講者	70名	66名	60名	75名	56名	61名	52名	52名	56名	43名	39名	54名	50名	32名	40名	54名
海洋学際教育プログラム登録者	81名	75名	68名	90名	66名	58名	49名	79名	64名	55名	47名	73名	56名	49名	53名	64名
海洋学際教育プログラム修了者	-	17名	18名	20名	16名	14名	16名	12名	11名	16名	11名	11名	9名	15名	15名	23名

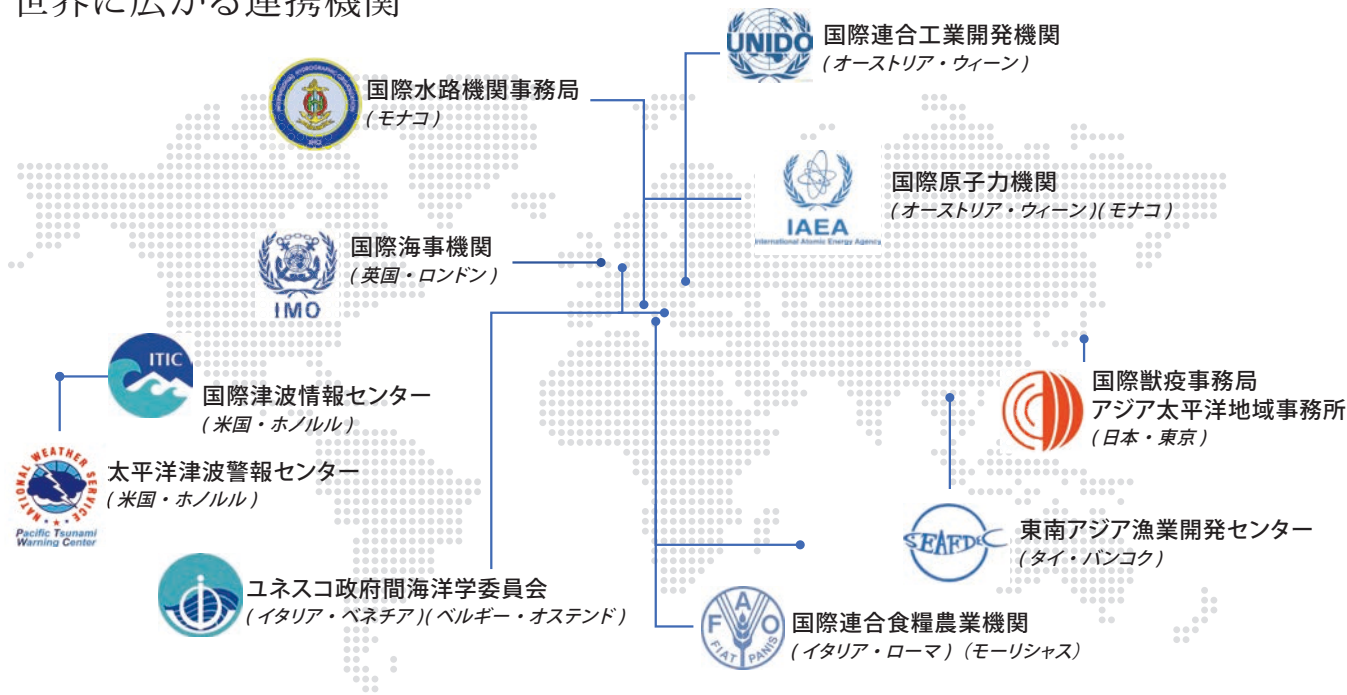
※2025年2月時点の見込人数

Internship

国連機関などに長期派遣 海外インターンシップ

海外インターンシップは、海洋にかかわる国際的な人材の育成を目指し、日本財団の助成で2014年度に始まりました。学内の選考を経て、2～3か月の長期にわたって国連機関などに費用負担なしで派遣されます。2014～2024年度の11年間で16機関に61人を派遣しました。将来のキャリアにつながる人のネットワークを築くことも期待されています。新型コロナウイルスの感染が拡大した2020～21年度はオンラインで実施しましたが、2022年度に派遣を再開しました。

世界に広がる連携機関



修了生の進路(一例)

■令和6年度【官公庁】農林水産省(総合職技術系)、外務省(総合職)、国土交通省(2名)、気象庁、環境省(自然系総合職)、原子力規制庁(研究職) 【民間企業等】EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社、IQVIA サービス・ジャパン合同会社、オーシャン ネットワーク エクスプレス ジャパン株式会社(総合職)、花王株式会社(技術系研究職)、株式会社みずほリサーチ・アンド・テクノロジーズ(総合職)、株式会社NTTデータCCS、株式会社極洋、株式会社日本総合研究所(リサーチ・コンサルティング部門)、株式会社野村総合研究所(2名)、出光興産株式会社(技術職)、清水建設株式会社 【進学・その他】理学系研究科博士課程(2名)、農学生命科学研究科博士課程(3名)、アルフレッド・ヴェグナー極地海洋研究所(博士研究員)、国立遺伝学研究所(学振PD)、最高裁判所司法研修所(司法修習生) ■令和5年度【官公庁】農林水産省(総合職事務系) 【民間企業等】全日本空輸株式会社(運航乗務員訓練乗務員訓練生)、鹿島建設株式会社(土木系総合職)、本田技研工業株式会社、株式会社商船三井(陸上総合職(事務系))、パナソニック コネクト株式会社、EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社、一般社団法人日本海事協会(技術系総合職)、デロイト・トーマツサイバー合同会社(サイバーアドバイザー)、ボストンコンサルティンググループ 【進学・その他】理学系研究科博士課程、理学系研究科(地震研究所)博士課程、新領域創成科学研究科博士課程など ■令和4年度【官公庁】外務省(総合職)、経済産業省(技術系総合職)、国交省(総合職事務系・院卒区分) 【民間企業等】株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル(総合[技術]職)、日本赤十字社(社会人学生・総合職)、アクセンチュア株式会社(マーケティング職)、ボストン・コンサルティング・グループ合同会社(アソシエイト)、PwCコンサルティング合同会社(コンサルタント職)、三菱商事株式会社(総合職)、KPMGコンサルティング合同会社(シニアマネージャー)、株式会社アグリメディア(総合職)、株式会社国際協力銀行(総合職)、応用地質株式会社(技術系総合職)、日本冶金工業株式会社(技術職)、NTTデータ(システムインテグレータ) ■令和3年度【官公庁】農林水産省、水産庁(総合職技術系) 【民間企業等】日本電信電話株式会社(NTT研究所)(研究開発職)、日本郵船株式会社(総合職陸上職事務系)、日本銀行(総合職)、三菱商事株式会社(総合職) ■令和2年度【官公庁】気象庁(総合職)、防衛省(事務系総合職) 【民間企業等】日本学術振興会 特別研究員(PD)(受入先 海洋研究開発機構)、株式会社野村総合研究所(AE)、株式会社テックスエンジニアリング・ソリューションズ(システムエンジニア)、株式会社ベネッセコーポレーション(総合職)、三井E&S造船株式会社(研究職)、アクセンチュア(SE)、アーンスト・アンド・ヤング(CCaSS部門)、富士通株式会社(SE職)、アマゾンジャパン合同会社(サブライチエンスベシャリスト) ■令和元年度【官公庁】外務省(事務系総合職2名)、農林水産省(技術系総合職)、農林水産省(水産庁)(技術系総合職)、農林水産省(水産庁)(総合職) 【民間企業等】みずほ情報総研株式会社(コンサルタント職)、国際石油開発帝石(INPEX)(技術系総合職)、株式会社Schoo(総合職)、丸紅株式会社(総合職) 【進学・その他】理学系研究科博士課程

海外インターンで世界に 視野を広げよう

海洋学際教育プログラムの海外インターンシップ制度を使い、国際海事機関(IMO)で2か月間の就業体験「エクスターンシップ」に参加しました。IMOはロンドンに拠点を置く国連の専門機関であり、船舶の安全、海洋汚染の防止などの海事問題を扱います。これまでに多数の条約がIMOで策定されてきました。

私が配属された法務部(Legal Affairs Office)は海事分野の法的問題に対処する部署です。おもに、IMO加盟国の主張や提案に関連して提起される法的な論点について調査、整理する仕事を任せていただきました。IMOの委員会における各国間の議論の場に実際に居合わせることもあり、非常に貴重な経験となりました。

仕事を通して、国際法規範の形成における国際機関の役割について理解が深まったと感じます。国家を主体とする規範形成過程に、国際機関の事務局がいかなる形で関与しているのだろうか。当初から関心があったこの点に関して、実際に組織の中で働くことで可視化される部分がありました。

また、国際色豊かな職場で働く経験もとても刺激的なものでした。多様な言語が周囲を飛び交い、組織の構造や働き方にも日本とは大きなギャップがあります。こうした環境に日々衝撃を受け、視野が広がりました。

これはあくまで一例で、派遣される機関や業務内容によって得られる経験は多種多様だと思います。自分の問題意識や将来のビジョンに照らして、国際機関でしか得られないものがあると少しでも感じられるならば、ぜひとも挑戦してみてください。

山田 廉さん

外務省
公共政策学教育部公共政策学専攻
国際公共政策コース専門職学位課程修了



Syllabus プログラム実施科目シラバス

■ 理学系研究科 ■ 工学系研究科 ■ 農学部生命科学研究科
■ 新領域創成科学研究科 ■ 公共政策学教育部

修了に必要な単位数

科目種別	必須修得単位数
必修科目	4
選択必修科目	4
小計	8
選択必修科目または 推奨科目	4
合計	12

■ 必修科目

- 海洋問題演習Ⅰ
- 海洋問題演習Ⅱ
- 海洋問題演習Ⅲ
- 海洋問題演習Ⅳ
- 事例研究
(海洋問題演習Va)
- 事例研究
(海洋問題演習Vb)

■ 選択必修科目

- 海洋法・海洋政策
インターンシップ実習
- 海事政策論
- 沿岸域管理法制度論
- 国際海洋法制度概論
- 海洋科学技術政策論
- 海洋基礎科学
- 海洋生物資源利用論
- 海洋工学基礎

■ 推奨科目

- 海洋底ダイナミクス
- 海洋生物学
- 水圏流砂漂砂論 E
(Sediment transport in hydrosphere E)
- 複雑流体システム
モデリング
- 海事技術
イノベーション
- 水産資源管理学
- 国際水産開発学総論
- 国際水産開発学特論
- 水域保全学
- 水圏生態論
- 海洋環境モデリング
- Science, Technology
and Public Policy
- ※1 国際空間秩序と法
- 交渉と合意

※1 法学政治学研究科総合法政専攻、法曹養成専攻でも同じ科目が開講されていますが、公共政策教育部が開講する科目のみが対象となりますので、ご注意ください。海洋学際教育プログラムとしてこの科目を履修する場合は、科目コード5121130を使って登録してください。

2021年度大学院入学者から修了に必要な単位数が変わりました。
2020年度以前の入学者の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

海洋学際教育プログラム事務局
Email : oa-office@oa.u-tokyo.ac.jp



海洋学際教育プログラム HP
<https://www.oa.u-tokyo.ac.jp/education/index.html>



Registration

プログラム履修の流れ

参加には「WEB登録」を

海洋学際教育プログラムに参加するにはWebでの申請が必要です。申請は通年で受け付けますが、各セメスターに開講される科目には研究科ごとに登録期限があるので、その点に注意してください。修了に必要な科目と単位数は、7～8ページに掲載しています。広い視野を身につけられるよう、研究分野が文系の学生は理系科目を、理系の学生は文系科目を履修することをお勧めします。大学院正規課程を修了または博士課程を満期退学することが、プログラム修了の条件となります。海外・国内インターンシップの募集開始時期は年度により異なります。事務局へお問い合わせ下さい。

海洋学際教育プログラム事務局

Email : oa-office@oa.u-tokyo.ac.jp

Web登録

右記 QR コードを読み込んで、登録してください。
<https://forms.gle/fXZFP3HYJcq8mpGF9>



最新情報

海洋学際教育プログラム Web サイト内の学内向け情報にてお知らせしますので、随時チェックしてください。学外からのアクセスには ID・パスワードが必要となりますので、事務局へお問合せください。

<https://www.oa.u-tokyo.ac.jp/education/index.html>



4月	5月	6月		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
海洋問題演習 Sセメスター					海洋問題演習 Aセメスター							
国内・海外インターンシップシップ募集・派遣(随時)												
・プログラム修了申請(9月修了予定者) ・プログラム登録開始(通年可) ・海洋学際教育プログラムガイダンス	・履修登録	・海洋問題演習 Sセメスターレポート説明		・海洋問題演習 Sセメスターレポート締め切り ・海外インターンシップ学内講演会	・Sセメスター成績 ・海洋問題演習 Aセメスターチーム分け	・9月入学者向けプログラム登録 ・Aセメスター講義開始	・プログラム修了申請(3月修了予定者) ・海洋問題演習フィールドワーク(随時)	・海洋問題演習中間発表	・海洋問題演習 Aセメスターレポート説明	・海洋問題演習 Aセメスターレポート締め切り ・海洋問題演習最終発表↓最優秀、優秀チーム表彰	・通年または Aセメスター科目成績	・プログラム修了式

年間スケジュール

■ 参加登録から修了までの流れ

1 参加の登録申請

登録は、必修科目「海洋問題演習 I ～Va」を履修するとともに、Webにて期日までに海洋学際教育プログラムに登録すること。

2 科目履修登録

履修は、所属する研究科等の定める履修手続き及び方法に従い、研究科等の定める期限までに履修登録すること。

3 科目単位認定

単位・成績の評価は、授業科目ごとに行われる。なお、他の研究科の科目を履修した場合の単位認定は、所属する研究科等において定められた取扱いによる。

4 修了証申請

修了証申請時期は、課程修了予定学期の学期始めの定められた期間に申請すること。

5 修了証授与

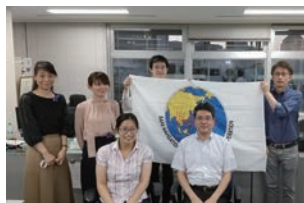
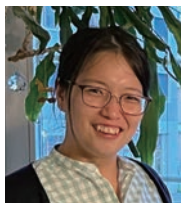
登録申請後、プログラムが定める所定の科目を履修し、かつ定められた期日までにUTASで部局横断型教育プログラムWeb修了証申請を行った者に、海洋学際教育プログラムの修了証を交付する。

社会と技術の双方から考える力を養う

二つの国内インターンシップで関連諸国との交渉や合意形成を体験し、次世代社会の構想に関する調査もしました。技術開発と社会実装が結びついており、双方からの多角的な視点と思考の重要性を実感しました。社会で必要とされるこの力を身に付けるには、専門分野や知識のバックグラウンドが異なる人たちと一つの課題を調査し議論する「海洋問題演習」で行うトレーニングが好適です。

原子力規制庁
理学系研究科地球惑星科学専攻博士後期課程満期退学

吉田 晶さん

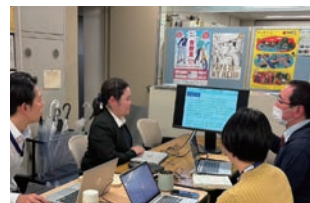


海を担うプロフェッショナルな体験を

海洋学際教育プログラムの最大の魅力は、研究科の垣根を越えて友人たちと議論し、海に関するプロの仕事その現場に入っ肌で感じることができる点です。「海洋問題演習」で青森県のサケ養殖場を見学し、そこで働く方の生の声を聴く貴重な体験ができました。また、国土交通省でのインターンシップで経験した海洋安全に関する業務に魅力を感じ、それが就職先を決めるきっかけになりました。

国土交通省
新領域創成科学研究科自然環境学専攻修士課程修了

山岡 璃音さん



社会に踏み出してみよう

社会経験を積むことができる点が、このプログラムの魅力だと思います。学内での活動にとどまりがちだった私にとって、社会に一步踏み出してみたことは、挑戦的かつ有意義な体験でした。「海洋問題演習」の授業を通して、情報収集力やチームを調整していく力など社会で生かせる自身の強みを発見することもできました。この経験は、これからの人生の原体験になると確信しています。

出光興産株式会社
理学系研究科地球惑星科学専攻修士課程修了

大石 健登さん



多彩な出会いの場

このプログラムの魅力は、「海」という広いテーマのもと、他専攻の学生や教員との出会いを得られることにあります。それに加えて、学際的な知見や学外でのさまざまな経験。国土交通省のインターンシップでは、海をめぐる多様な関係者の存在を実感する貴重な経験が得られました。将来、「海」に関わる仕事に携わりたい私にとって、これらはいずれもかけがえのない財産になりました。

最高裁判所司法研修所(司法修習生)
法学政治学研究科法曹養成専攻専門職学位課程修了

美和 恭平さん

